

令和2年度 もも病害虫防除暦

JA佐渡もも・ネクタリン倶楽部

【令和元年12月4日現在の登録内容】

回数	散布時期	実施日	主な対象病害虫	10a散布量(成木(SS)%)	薬剤名	散布濃度	収穫前使用時期	使用回数	水100Lあたり薬量	使用上の注意
1	3月上旬中旬	/	黒星病・灰星病 せん孔細菌病、縮葉病	300	チオノックフロアブル	500倍	7	5	200 ml	<ul style="list-style-type: none"> ・チオノックフロアブルとハーベストオイルに替えて、石灰硫黄合剤7倍（発芽前）単用散布でも良い。 ・温暖無風の日にていねいに樹全体を洗い流す用に散布する ・いぼ皮病の発生が見られる時は、患部を削りトップジンMペーストを塗る
	発芽前		カイガラムシ類		ハーベストオイル	50倍	発芽前	-	2,000 ml	
2	4月中旬 （開花前 （1～2部咲））	/	せん孔細菌病、縮葉病	300	ICボルドー412	30倍	-	-	3,333 g	<ul style="list-style-type: none"> ・展葉後の散布は薬害を生じるので、散布時期を厳守する ・せん孔細菌病春型病斑をみつけたら、切除し処分する
			シクイムシ類 ハマキムシ類 カミシムシ類		ダズバンDF	3000倍	14	5	33 g	
3	4月下旬 落花直後	/	せん孔細菌病	300	アグリマイシン100	1500倍	60	2	66 g	<ul style="list-style-type: none"> ・花腐れの発生が多い場合（黒星病対策）は、トリアックス水和剤1,000倍（前日/3回）を散布する
			カガラムシ類、アブラムシ類、モモハモグリガ、シクイムシ類		サイアックス水和剤	1000倍	21	3	100 g	
臨時	5月上旬	/	コスカシバ防除のフェロモン剤、スカシバコンLを10a当たり40～100本取り付ける。							
4	5月上旬 落花10日後	/	黒星病・灰星病 せん孔細菌病、縮葉病	350	チオノックフロアブル	500倍	7	5	200 ml	
			アブラムシ類、モモハモグリガ、シクイムシ類、カミシムシ類		スタークル顆粒水溶剤	2000倍	前日	3	50 g	
5	5月中旬 （落花20日後）	/	せん孔細菌病	400	マイコシールド	1500倍	21	5	66 g	<ul style="list-style-type: none"> ・カメムシ多発園ではアデント水和剤1,000倍（前日/3回）を散布する
			シクイムシ類 ハマキムシ類 モモハモグリガ		サムコフロアブル10	5000倍	前日	2	20 ml	
臨時	5月下旬	/	ハモグリガ、ハマキムシ防除に交尾阻害フェロモン剤として、コンフューザーMMを100本/10aを取り付ける							
6	5月下旬	/	黒星病・灰星病 せん孔細菌病、縮葉病	400	チオノックフロアブル	500倍	7	5	200 ml	
			アブラムシ類、モモハモグリガ、シクイムシ類、カミシムシ類、アザミヤカ類		モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	前日	3	25 g	
7	6月上旬	/	せん孔細菌病	500	マイコシールド	1500倍	21	5	66 g	<ul style="list-style-type: none"> ・散布後できるだけ早めに袋をかけるようにしましょう！
			アブラムシ類、モモハモグリガ、シクイムシ類、カミシムシ類		アデント水和剤	1000倍	前日	3	100 g	
8	6月中旬	/	黒星病、せん孔細菌病、ホモシ腐敗病	500	デランフロアブル	600倍	7	4	166 ml	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>デランフロアブルに替えて、チオノックフロアブル 500倍（7日/5回）を使用しても良い。</u>
			アブラムシ類、モモハモグリガ、シクイムシ類		スタークル顆粒水溶剤	2000倍	前日	3	50 g	
9	6月下旬	/	せん孔細菌病	500	スターナ水和剤	1000倍	7	3	100 g	<ul style="list-style-type: none"> ・いぼ皮病の発生樹にはベント水和剤2,000倍（前日/3回）を樹幹散布する ・早生種の灰星病対策は収穫20日前より実施する。（収穫時期からさかのぼり散布日・薬剤を決定する）。
			ハダニ類 モモサビダニ		コロマイト乳剤	1000倍	7	1	100 ml	
10	7月上旬	/	黒星病、せん孔細菌病、ホモシ腐敗病	500	デランフロアブル	600倍	7	4	166 ml	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>デランフロアブルに替えて、チオノックフロアブル 500倍（7日/5回）を使用しても良い。</u>
			アブラムシ類、モモハモグリガ、シクイムシ類、カミシムシ類、アザミヤカ類		モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	前日	3	25 g	
11	7月中旬	/	ホモシ腐敗病、灰星病	500	ナリアWDG	2000倍	前日	2	50 g	<ul style="list-style-type: none"> ・モモハモグリガ多発園ではテルスターフロアブル3,000倍（前日/2回）を加用散布する。
			ハダニ類		ダニサラバフロアブル	2000倍	前日	2	50 ml	
12	7月下旬	/	灰星病、黒星病 ホモシ腐敗病、	500	オーシャイン水和剤	2000倍	前日	3	50 g	<ul style="list-style-type: none"> ・除袋後、降雨後の散布を必ず行う。また、灰星病の罹病果実は埋めるもしくは園外に持ち出し処分する。 ・前日使用の薬剤であるが同じ剤の連用は避け、ローテーションを組んで実施する。
臨時	8月上旬	/	灰星病、黒星病	500	フルーツセイバー	1500倍	前日	3	66 ml	
13	収穫後防除	/	せん孔細菌病、縮葉病	500	ICボルドー412	30倍	-	-	3,333 g	<ul style="list-style-type: none"> ・ハマキムシ類が多発した場合はダズバンDF 3,000倍（14日前/5回）を加用する。 ・この時期のボルドー散布は必ず行う。
14	9月中旬	/	せん孔細菌病、縮葉病	500	ICボルドー412	30倍	-	-	3,333 g	<ul style="list-style-type: none"> ・この時期のボルドー散布は必ず行う。
臨時	収穫後～ 発芽前	/	コスカシバ	200	トラサイドA乳剤	300倍	発芽前	1	333 ml	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽後散布は薬害の恐れがあるので、発芽前使用を遵守する。なお、コスカシバ被害箇所を削り取ったからの散布が効果的である。 ・トラサイドA乳剤に替えて、ガットキラー乳剤100倍（休眠期/1回）でも良い。

アグリマイシン（サシトマイシン、ストプトマイシン）とマイコシールドの使用回数限度に注意し、上記以上の散布をする場合はJAに相談下さい。

【薬剤散布における注意事項】（必ず守ってください）

（注1）

農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談してください。
 周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。（他の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう。）
 農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守しましょう！
 散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。
 防除は生育や病害虫の発生予察に注意して適期に実施しましょう。
 園地環境（防風樹の整備・草刈りの徹底）をよくしましょう。

（注2）

薬剤混用の順序（水和剤混用の場合） 水 → 展着剤 → 殺菌剤 → 殺虫剤
 薬剤混用の順序（乳剤混用の場合） 水 → 乳剤
 薬剤混用の順序（フロアブル剤、水和剤混用の場合）水 → フロアブル剤 → 水和剤
 ※ボルドー液の場合はボルドー液調整後に展着剤→殺虫剤の順に混用しましょう。

【展着剤】（せん孔細菌病対策としての薬剤効果向上のための展着剤）

展着剤名	有効成分と特性	散布倍率	水100Lあたり 薬量	注意事項
ネオステリン	ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル系（界面活性剤）	5000～20000倍	20～5ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
◎アビオンE	パラフィン展着剤（乳化性と表皮保護にすぐれる）	1000倍	100ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
ハイテンパワー（クイックタッチ）	ポリオキシアルキレン脂肪酸エステル30%（乳化にすぐれ泡立ちが少ないが、耐雨性に劣る）	5000～10000倍	20～10ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
ブレイクスルー	シリコーン系：ポリオキシアルキレンオキシプロピルヘプタメチルトリシロキサン80%（拡張性と速乾性が高く汚れが少ない）	5000～10000倍	20～10ml	薬剤調整後に本剤を加え攪拌する（最後に入れる）

【葉面散布剤肥料】（せん孔細菌病対策としての植物体内の強化のための資材）

展着剤名	保証成分	散布倍率	水100Lあたり 薬量	特徴と注意事項
トップハーベスト 富士見物産（埼玉農耕株）	乳酸菌・酵母菌・納豆菌・ミネラル・水	500～1000倍	200～100ml	菌体外酵素やアミノ酸、ビタミン、ホルモン、核酸等を豊富に含有し、食味向上等、食物生育環境の改善効果あり。5月～収穫前までの薬剤散布に合わせたタイミングでの使用を薦めます。※アルカリ性農薬とは混用できません。
ケイ太君 富士見物産（埼玉農耕株）	ケイ酸94.6%、アルミニウム3.38%、チタン、鉄等	3000～5000倍	33～20g	ケイ酸を主成分とした植物ミネラル（海草ケルプ）病害虫への抵抗性発現、光合成活性に効果あり。トップハーベストと合わせて5月～収穫前までの薬剤散布に合わせたタイミングでの使用を薦めます。
アミンサイド(500g) ダン化学（埼玉農耕）	窒素6%、水溶性りん酸6%、水溶性カリ6%、水溶性苦土10%、水溶性マンガン2%、水溶性ほう素0.5%	600倍	166g	アルカリ性農薬とは混用できません。栄養着色の増進、各種原因による栄養回復に収穫前2～3回